

みんなの 町議会

第 17 号

2009 年 1 月

 神石高原町



米見山

初日の出を迎える会（子ども神楽）とよまつ紙ヒコーキタワー

新たなスタート（神石高原町議会）	2
町立病院改修工事始まる（補正予算）	4
和牛の里再構築は（一般質問）	6
上下水道料金を値上げ（条例改正）	12
時安空手クラブ（グループ紹介）	14

「元気な まちづくり」へ 新たなスタート



議長新年の
あいさつ

新年明けましておめでとうございます。町民の皆様には、日頃から町政に対する温かい御理解と絶大なる御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。
新年を迎え、神石高原町の一段の躍進を期して、清新の気が漲るのを覚えます。
少子・高齢化、過疎化が急激に進む本町におきましては、財政健全化をはじめ、雇用の創出・定住対策、町立病院を核とした医療・

福祉の確立、地場産業の振興、情報通信、生活交通基盤の整備、学校統合や教育基盤の整備など、多くの課題を抱えており、行政需要はその量・質とも複雑多岐にわたり、極めて厳しいものがあります。
議会といたしましては、『人と自然が輝く高原のまちづくり』を目指して、今後さらに創意工夫を重ね、町民皆様方の御期待に応えるよう決意を新たにしております。
本年も相変わらぬ御支援・御協力を賜りますよう、心からお願ひ申し上げ、新年のごあいさついたします。

神石高原町議会議長 岡崎 眞



神石高原町議会

新体制で始動！

12月定例会

改選後初議会となる12月臨時会(第5回)は、12月8日開かれ、議長の選挙など5選挙が行なわれ、議会の構成が決まりました。
12月定例会は、12月15日から、19日まで開かれました。
今回の定例会(第6回)では、平成20年度一般会計・各特別会計の補正予算(12月補正)をはじめ、副町長の選任同意、神石高原町暴走行為及び暴走族の根絶推進に関する条例の制定など31議案が提出され、すべて原案どおり可決しました。
また地方の道路整備のための財源確保に関する意見書など、4意見書が提出されそれぞれ採択しました。
一般質問では、12名の議員が当面する行政課題をただしました。



〈議会広報広聴委員会新メンバー〉

ご愛読よろしく
お願いします。

● 議会 議長 岡崎 眞 ● 議会 副議長 松本 彰夫 ● 議会選出 監査委員 瀬尾 征爾 ● 福山地区消防組合議会議員 小川 清治 ● 後期高齢者医療広域連合議会委員 小林 貢	・ 総務文教常任委員会 委員長 村上 克朗 副委員長 木野山孝志 委員 片山元八郎・小林 貢 松本 彰夫・橋本 輝久 横尾 正文	・ 産業建設常任委員会 委員長 佐伯 卓師 副委員長 寄定 秀幸 委員 瀬尾 征爾・岡崎 眞 藤田 晃己・丸山 達夫 小川 清治	・ 議会運営委員会 委員長 藤田 晃己 副委員長 小林 貢 委員 木野山孝志・丸山 達夫 寄定 秀幸	・ 広報広聴調査特別委員会 委員長 木野山孝志 副委員長 寄定 秀幸 委員 小川 清治・橋本 輝久 横尾 正文
--	---	---	---	--

Q 補助金を4件と共同施設1件の350万円が補正されているが、国庫補助対象の箇所は無いのか。

A 環境衛生課長 これらの補助対象は国庫補助対象外だ。

Q 安田上地域には前から要望が出ているが今後どのように対応する

Q 有害鳥獣駆除対策事業費が12月補正で567万5千円計上されているがその内訳は。

A 環境衛生課長 今年度の水不足による要望者に対応しているもので、それらは今後検討する。

Q 町外の駆除隊にも補助金対応があるので。

A 産業課長 秋までの電棚など317件と駆除対策費である。

Q 町外の駆除隊にも補助金対応があるので。

A 産業課長 町外の駆除隊員は該当しない。

Q 退団者69名、入団者27名となっている。退団理由と将来的に団員数をどう推計しているのか。

A 総務課長 2年に1回人事の刷新をしているが、合併して2回目の更新の時期である。

Q 退団理由は実質活動できていない団員、団長

Q 団員該当者が減少している中、今後、実

1名など世代交代も含めた人数である。入・退団者数の差が大きく、来年1月1日が698名となり、700名を切ることは危惧している。当面は器具の整備を図り小數精銳による地域消防団を充実して行く。

A 総務課長 待遇改善・施設設備改善と併せて、退団希望者のうち実働的団員への慰留、事業所などへの協力依頼などを含め、団員確保に努めたい。

問 飲料水確保対策事業は

村上克明議員

問 消防団管理経費について

小林 貢議員

平成20年度12月補正

予算 質問

Q 県立神石三和病院の改装費が4千万円減額されている。新年度に改めて予算化するのか。

A 病院対策室長 本年度は、工期的にも無理があり、減額補正した。新年度に外壁工事、2階、3階の改装を行った。

Q スクールバス4台の購入が計上され、町営バスとして、運転業務を委託される計画だが、全面委託よりは、交付税の関係などで有利なのか。

A 企画課長 町で購入すると、補助金、交付税の対象となるので、直営で行い、運転業務のみ委託する。



病院対策室

12月補正予算 (単位：万円)

会計名		補正額	補正後の額
一般会計		1億995万円	102億4,571万円
特別会計	国民健康保険	▲8,596万円	12億1,671万円
	後期高齢者医療	0	3億4,320万円
	老人保健	0	3億5,887万円
	介護保険	425万円	16億9,184万円
	簡易水道事業	1,152万円	4億8,074万円
	飲料水供給施設事業	▲40万円	4,422万円
	農業集落排水事業	140万円	2億3,844万円
特別会計	分収育林事業	0	10万円
	計	▲6,919万円	43億7,412万円
合計		4,076万円	146億1,983万円

問 病院改装費の減額は

松本彰夫議員

町立病院開院に向けて 改修工事始まる

一般会計 12月補正

補正予算額 1億995万1千円
補正総予算額 102億4,571万8千円

費目	補正予算額	主な内容
総務費	2,053万6千円	職員人件費▲105万9千円 行政財産管理経費(火災保険料)27万3千円、指定管理となる集会施設修繕費2,000万円、CATVアンケート14万円、新エネルギー計画作成35万6千円、ふるさと応援寄付のお礼13万円、コミュニティー施設管理経費40万円、他
民生費	5,160万円	職員人件費▲209万1千円、敬老会開催経費▲40万円、高齢者福祉施設・雨漏り修繕費(豊松)241万5千円、障害者介護給付・訓練給付事業2,600万円、障害者補装具給付事業140万円、障害者自立支援医療事業80万円、介護保険特会繰り出し経費213万7千円、シルトピア・認知症デイサービスセンター1,000万円、学童保育(神石)ストープ5万3千円、母子生活支援事業4万4千円、こばたけ保育所(漏水修理)油木保育所(炊飯器・冷蔵庫・食器・ラジカセ・ファンヒーター)55万6千円、生活保護935万8千円、他
衛生費	▲3,425万8千円	町立病院改修工事▲4,000万円、入浴施設備品、他280万円、職員人件費101万5千円、妊産婦健診公費助成(5回→14回)100万3千円、ボーリング工事補助350万円、やすらぎ苑・2号炉制御盤取り替え工事60万円、グリーンセンター陽光・落雷修繕費46万5千円、し尿処理場燃料費(電気料・ポンプ修繕)274万4千円、他
農林水産業費	2,603万8千円	職員人件費▲30万4千円、強い農業づくり交付金▲190万8千円、県営中山間地域総合整備事業▲146万4千円、中山間地等直接支払い事業289万3千円、有害鳥獣対策(電柵、ネット、トタン等補助)567万5千円、和牛の里(浄化槽撤去改修工事(50人槽→7人槽))96万8千円、和牛の里・電柱移転費78万8千円、単県農道改良工事(牧線・八幡宮前線)1,800万円、地籍調査173万6千円、他
商工費	113万4千円	スコラ・自動火災報知器・非常時放送施設落雷修理113万4千円、他
土木費	253万3千円	職員人件費▲6万7千円、緊急地方道路整備事業260万円、他
消防費	2,398万6千円	消防団退職金(69名)2,373万9千円、消防屯所等管理経費24万7千円
教育費	1,854万6千円	スクールバス購入費(4台)1,295万9千円、高蓋小・ストープ8万円、二幸小(地下水ポンプ・漏水修理・体育館使用による光熱費)28万9千円、小学校特殊教育援助13万3千円、小・中学校医報奨金11万円、小・中学校医療扶助6万8千円、三和中(校舍改修工事)374万円、中学校修学旅行介助員経費6万7千円、三和地区共同調理場(冷蔵庫・高圧洗浄機)37万円、給食扶助費48万円、他
諸支出金	▲16万4千円	敬老会対象人数減▲16万4千円



AED 講習

Q 内部障がい者に対する理解の輪を広げるための啓発を行い「ハート・プラスマーク」の周知徹底を行っていただきたい。

A 町長 公共施設などの駐車場へ「ハート・プラスマーク」を表示するべきでは。

Q 心臓、腎臓、膀胱、直腸、呼吸器、小腸、ヒト免疫不全ウイルスによる

Q 公共の施設や、集客施設などへ「オストメイト」対応トイレの設置をすべきでは。

A 町長 膀胱および直腸の機能障害で多くの方が悩ま

Q 大矢の産廃業者にに対し「大気汚染防止法」に基づき厳正な対応はできないのか。

A 町長 環境汚染・大気汚染は大変であると認識している。県に対して、規制を促すよう一歩踏み込ん

Q ブックスタートへ具体的にどう取り組むのか。

A 教育長 町内読み聞かせの団体との連携により、幼児を対象にした健康診断や会合などでブックスタートの普及を図りたい。

内部障害者に理解を深める

ハート・プラス

オストメイトマーク

オストメイト対応トイレは、神石高原町内には1カ所、「道の駅三和182ステーション」にあります。

Q 町執行部はこの事業はやる気がないのにアンケート調査していると言う声を聞く。基本的にはやる気があるのかないのか。

A 町長 やる気がないことは

Q アンケート調査をする前に職員全員に対して、事業構築に向けて研修し、町民から聞かれても十分な説明が出来るよう努めるべきだ。

Q 説明会は自治振興会任せではなく、職員自ら説明し、欠席者へも訪問説明した後にアンケート調査するべきだ。

A 今回のやり方だと、DSL整備時のアンケート調査同様精度にける調

Q 企画課長 アンケート調査の結果、賛成が50%を超え、町長判断で事業実施になれば、詳細な説明会を実施し、加入促進を図る。

A 消防団の定員は改選期で退団者が69人、

Q 町を挙げて「読書感想文コンクール」を実施してはどうか。

A 教育長 来年度「読書感想文コンクール」実施に向けて検討する。



消防大会

問 C A T V 事業、やる気があるのか

答 ないことはない



小川清治 議員

査結果になる。町の未来を左右する重大事業に対する取組みとは思えない。間違いない判断を願う。

Q 総務課長 指摘通り定員割れとなる見込みである。新入団員候補者全員に入団依頼を行ったが、全体数が限られているので定員割れとなった。

Q 活発な活動するためには「個人」から「共同」の意識改革が必要である。また、リーダー及び人材の育成支援が求められるのでは。

A 町長 まさにそのとおりであり意識改革が必要であると考えている。自治

Q 公民館と自治振興会との関わり及び支所の役割は。

A 教育長 支所・公民館・自治振興会との連携をとつて

Q 振興会の研修を始めており、担当課による適切なアドバイスを行う。

A 現在、仮称「町民センター」構想を細部にわたる検討中である。早期にとりまとめた

Q 地域公共交通の再編計画は、住民の声を十分に反映しているのか。

A 町長 ベストな計画(案)だと思っている。1、2年試行し見直しも考えている。

A 企画課長 住民の声を大切に、公共交通協議会を通して見直しを図る。



都市との交流（有木地域）

Q 学校再配置計画について地域との協議の計画は。

A 教育長 教育効果を最優先にした方向性をもっている。豊松地区では、「豊松の教育を考える会」を窓口協議をすすめる。

問 自治振興会の活性化を

答 研修会など取り組む



橋本輝久 議員

Q このままでは繁殖の目標数を大きく下回ると思われるが、具体策は。

A 町長 このままでは大幅な頭数減が避けられないので積極的な政策によって維持拡大を図っていきたい。また30頭規模の農家を育てることを主眼としている。和牛の里を利用

Q 学校再配置計画について地域との協議の計画は。

A 教育長 教育効果を最優先にした方向性をもっている。豊松地区では、「豊松の教育を考える会」を窓口協議をすすめる。

Q 融資については、旧東城町で成功例がある。本町でも積極的に取り組むべきでは。

A 産業課長 積極的に応援していきたい。

あなたの声を町政に

一般質問

1問1答方式で行いました。質問時間は1人30分です



肥育用牛舎

Q このままでは繁殖の目標数を大きく下回ると思われるが、具体策は。

A 町長 このままでは大幅な頭数減が避けられないので積極的な政策によって維持拡大を図っていきたい。また30頭規模の農家を育てることを主眼としている。和牛の里を利用

Q による省力化が必要だが具体策は。

A 町長 このままでは大幅な頭数減が避けられないので積極的な政策によって維持拡大を図っていきたい。また30頭規模の農家を育てることを主眼としている。和牛の里を利用

Q 学校再配置計画について地域との協議の計画は。

A 教育長 教育効果を最優先にした方向性をもっている。豊松地区では、「豊松の教育を考える会」を窓口協議をすすめる。

Q 認定農家に対して無利子の「スーパール資金」がある。牛舎の幹旋については、県の畜産担当者と協議中である。

A 産業課長 積極的に応援していきたい。

問 和牛の里再構築の具体策は

答 積極的に維持拡大を図る



横尾正文 議員

Q 認定農家に対して無利子の「スーパール資金」がある。牛舎の幹旋については、県の畜産担当者と協議中である。

A 産業課長 積極的に応援していきたい。



農道矢壁線

問 二期目の方針と基本姿勢は

答 職員削減は現在より一歩踏みこむ



丸山達夫議員

Q 規模に対し多すぎる職員数の削減計画は。

A 町長

職員削減は財政健全化の大きな柱である。現在、職員定員適性化計画は達成できている。しかし、理想としては人口1000人に対し、職

員一人でない、財政健全化はない。勧奨退職、分権も考えながら、現在の適性化計画以上に踏み込んだ、削減を考える。

Q 自主財源確保の、企業誘致の目鼻と政策は。

A 町長

現在の激しい経済状況では、不可能に近い。企業から荒廃農地などへの問合せもあり、希望もあるが、世界同時不況と激動社会の中、大企業の計画凍結と円高を合せると困難と考える。

Q 井関定住団地開発計画の進捗状況は。

A 町長

現在のLTP組織の理解・周知不足で、組織の再編も考えられる。3カ月前と経済状況も大きく変化している。多方面の角度から慎重に進めなければ、一大事となると認識している。冷静な判断が必要である。

Q 厳しい財政状況からの、三次市の市長退職金廃止条例案提出の記事に対しての考えは。

A 町長

三次市長は、激戦選挙時の公約と聞く、私は公約にしていないので、その考えはない。

問 「集会施設」指定管理のメリットは

答 管理費の節減や利用料収入の確保など



木野山孝志議員

Q 集会施設などの管理を地元自治振興会に指定するメリットは。

A 町長

○維持管理費の節減。○施設利用の不公平感の解消。○地元利用率の向上。○地元の利用料収入の確保などがある。

Q 定期的な見直しは。

A 総務課長

指定管理期間は1年としている。その時点で見直す、毎月の自治振興会との会議で問題点を把握する。減免措置は、基本的には考え方を統一している

が、実態を見て調整する。

Q 高速情報通信整備アンケート調査結果をどう生かすのか。

A 町長

結果をみて判断するが、政治判断となる。

Q アンケートのなかで、「わからない」の意見をどう扱うのか。

A 企画課長

中身をよく理解されていない方を含めどうするか検討するが、最終的には町長の政治判断となる。

A 町長

農業公社に公的資金を無制限に注入するには財政的に無理がある。公社の自助努力のために、また地域の要望にはある程度応えたい。

Q 農業公社には零細農家対策の役割もあり、赤字は避けられないのでは。

A 産業課長

新たな収益性の部門を求めることも必要であり、具体的な成果を目指して行きたい。

問 和牛の里へ事務所の設置は

答 今後の検討材料だ



村上克朗議員

Q 繁殖基地再構築の組織で、和牛改良組合の強化に成るのか。

A 町長

21年度に60頭規模の牛舎を計画している。

Q 和牛改良組合の事務局を配置すべきでは。

A 産業課長

必要ならば、今後検討する。

Q 小規模牧草地整備に補助の計画を。

A 産業課長

国や本町にも補助制度がある。

Q 認知症対応型デイサービスセンターの開所に補正予算化された。財源内訳に変化があったのか。

A 町長

今回、国庫補助と成った。当初の起債は調整する。

Q 行政としての許可基準は。

A 保健課長

認知症介護施設は「よなみの里」「安田いこいの家」の施設がある。現在、町内に認知症対応型デイサービスは無い。小規模対応型運営委員会を経て県に申請している。

Q 新規公共交通体系による事業の内訳は。

A 町長

新規に購入するス

Q 公共交通協議会に油木高校からの委員を。

A 町長

異論は無い。

Q バス購入での町営バスの運営は民間委託を。

A 企画課長

バスは町が所有し運営は民間に委託する。

い。

Q 現在の進捗状況でアナログ放送中止（平成23年7月）までに間に合うのか。

A 町長

ぎりぎりの段階である。

Q 受皿となる業者は？

A 企画課長

営業には1社来ている。その他3社から、情報提供を受けている。

問 今後の道路行政は

答 まだまだ必要・整備に取り組む



藤田晃己議員

Q 新規の道路建設への考え方は。

A 町長

まだまだ道路建設は必要と思う。R182・周回道路など整備に取り組む。

A 町長

支障木の除去など、地域で取り組めない時は委託事業で行う。本年度も18路線、4,400mを143万円で実施している。

る体制に要望すべきでは。

A 町長

一般競争入札が時代の流れであるが町内業者の育成強化へ向けて努力する。

Q 町道の維持管理は。

Q 町内の県発注工事に町内業者で入札出来

Q 公共工事で雇用の創出を

A 町長

情報通信基盤整備（ケーブルテレビ）のアンケートの結果がどの程度の賛成で本格的に取り組むのか。

問 井関定住団地工事の着工は

答 LLPの再編が急務

Q 井関定住団地の調整池・幹線道路の予算計上をしているが、未だ着工していない。要因は何か。

A 町長 幹線道路は町が行うので早期に着工したい。調整池についてはLLP（元気なまちづくり有限

責任事業組合）の団地造成との連携が必要で、着工に至っていない。

Q LLPの組織体制に問題があると聞くが、実態はどうか。

A 町長 現下の経済状況はご案内のとおりで、LLP

構成員の財務状況が悪化しており、機能不全に陥っている。LLPの再編が必要となっている。

Q 再編ができないと事業が進まないとは異な、再編ができるのか。その



瀬尾征爾 議員

のリミットは。

A 町長 構成員の脱退も予測され、やる気のある人だけに絞る組織の再編が必要だ。再編自体に町は口出しできないが、パートナーとして精力的に取り組む、早い時期に再編したい。

Q 好景気時期が販売時期である。景気動向と事業実施の考え方は。

A 町長 事業中止は考えていない。ピンチはチャンスとも言われ前向きにやりたいが、手法の変更など集約して慎重・冷静に対応していきたい。



井関定住団地進入路改良予定地

問 支所の将来的構想は

答 当面は現状で

Q 支所配置は、合併に絡む住民サービス確保の最たるものであるが、昨今では財政問題も併せて考えざるを得ない。

A 町長 維持管理費・人件費を合わせると、3支所で、3億7060万円を費やしている。支所機構

を見直さない限り、財政再建はむずかしい。住民サービスを維持しながら、経費削減の方法はないか。

A 町長 支所は職員の定数と相關関係にあり、職員定数の削減が可能になった時は支所機能を維持する



小林 貢 議員

のがむずかしくなる。そんな事態はあり得るが、現在はそうではない。

そこを慎重に配慮しながら、見極めねばならない。とは云え、独断ではできない。住民の皆さんの意見もある程度伺いながらやる事項だと思ふ。又、どの団体でも、合併

して年々縮小する運命にあると思うし、仕方ない面でもある。しかし行政機関であるから、一時に理想に向けてと云う事は、地域の皆さん・町民の不安をおおることでもあり、慎重にやるべきと思う。

しばらくはこの恰好をとりたい。支所のあり方については支所長・内部事務方でも検討しているが、これと云った理想像はなかなかない。

問 「神石高原町立病院」の発足に万全を

答 町立病院発足は支障なし

Q 医師・看護師などの確保は大丈夫か。

A 町長 現県立病院の医師4名が留任を決定。正看護師20名を確保。あと2名の常勤医師については、県・大学・陽正会に派遣要請中。介護補助者20名を募集中。来春の町立病

院発足は支障なし、との見通しである。

Q 陽正会の経営状況を「おらが病院」として、育て・見守る組織を立ち上げるべきでは。

A 町長 「病院あり方委員会」の報告にも明記され、名

称はともかく、町民・行政・病院が一体となった、育て・見守る組織は必要だ。

Q 小島バイパスに21年度、県は予算を付けるのか。

A 町長 県は1工区・2工区通しての事業と認めた。

金額は少ないが、予算付けの感触は、80%確信している。一般県道と違い「バイパス」は、地元が用地を整えないと予算は付けない、というのが県の姿勢だ。

Q 第3の死亡事故は絶対阻止すべきだ。4年以内の全線開通を望む。

A 町長 県も財源不足であるが、「バイパス」を「継続」事業と認めた。予算が付けば、上地域からの工事に入ってくれると思う。早期完成に向け、「期成推進委員会」とも連携し、最大限努力する。



工事中の小島バイパス

問 午後の診療と手術の体制は 答 当初からは困難である



松本彰夫 議員

Q 町立病院が来年度からスタートする。当初の説明で、午後の診療も行いたいといわれているが、実現できるのか。

A 町長 午後診療は、できるように取り組みたいが、開設当初はスタッフも十分でなく、最初からは困難である。手術については、外科医・麻酔科の医師の確保が困難で、当初からは、無理である。

Q 運営にあたっては指定管理者の募集要項に定められた事がどう実行されるかである。

A 町長 運営にあたっては指定管理者の募集要項に定められた事がどう実行されるかである。その中で、在宅医療の充実がある。訪問診療・訪問介護はできるのか。

A 町長 募集要項が、町立病院運営のあり方であり、

基本になる。在宅医療については今までどおり取り組む。

Q ケーブルテレビは、町の方針として取り組むのか。アンケートの結果で取り組むのか。

A 町長 必要最小限の施設で取り組みたい。アンケートは総務省から、義務づ

けられたものであるが、政策決定を判断する上で参考にしたい。

Q ケーブルテレビを取り組まない場合、告知放送、地デジなどの対策は。

A 町長 ケーブルテレビを検討中で、他の方法については回答できない。



県立神石三和病院

条例制定・改正

こんなことが決まりました

上下水道料金を値上げ

賛成多数

- 集落排水 基本料金…1,890 円→ 2,520 円
- 簡易水道 基本料金…1,785 円→ 2,200 円
超過料金…それぞれ 20 円アップ
※但し、2 年間の経過措置あり

出産・育児一時金 38 万円に増額！

賛成多数

- 35 万円→38 万円
(産科医療補償の保険料 3 万円が国から増額支給されます)

暴走行為・暴走族の根絶を！

賛成多数

- 住民の安全安心と青少年健全育成を図るため制定

集会施設の指定管理にともなう条例の制定

賛成多数

- 町税条例の一部改正……地縁団体(自治振興会、班など)の収益事業を行わないものの法人町民税を減免するもの。
- 集会施設の使用料の改正……統一化(平準化)しました。

選挙及び選任などの同意

賛成多数

選挙

- ・選挙管理委員会委員
寺田 暢之・佐伯 嘉昭・政宗 武幸・小坂 芙美
- ・選挙管理委員会補充員
佐伯 暢哉・岡崎 均・前原 重宣・井原 俊邦

選任などの同意

- 副町長……………上山 実(再任)
- 教育委員会委員……………横山 博則(再任)・田邊 孝章(新任)
- 監査委員(代表監査委員)…岡崎 武志(再任)
- 監査委員(議会選出委員)…瀬尾 征爾(再任)

議会推薦

- 農業委員会委員……………丸山 達夫(推薦)

意見書提出

地方の道路整備のための財源確保に関する意見書

提案者 佐伯 卓師 議員
賛成者 寄定 秀幸 議員

- ・暫定税率期限切れによる地方歳入欠損の補填措置と地方道路臨時交付金の継続など道路財源の充実をはかること。
- ・新たな道路整備を計画的かつ着実に推進すること。
- ・高速自動車国道の着実な整備、利用者の利便性向上をはかること。

障害者自立支援法の抜本的見直しを求める意見書

提案者 片山元八郎 議員
賛成者 村上 克朗 議員

- ・原則 1 割負担となる応益負担制度の撤廃を求める。
- ・事業者に対する報酬単価引き上げと報酬単価日額制の撤廃を求める。

国による公的森林整備の推進と国有林野事業の健全化を求める意見書

提案者 小川 清治 議員
賛成者 丸山 達夫 議員

- ・森林吸収源対策の着実な推進と森林経営意欲の創出と地域林業・木材産業の振興を図ること。
- ・国の関与による森林整備制度の創設と国有林の適正管理および森林・林業担い手育成を図ること。

中山間地域等直接支払制度の継続と充実強化を求める意見書

提案者 木野山孝志 議員
賛成者 丸山 達夫 議員

- ・平成 22 年以降も制度の継続実施と必要な財源確保を図ること。
- ・地域特性に応じた取り組みが出来るよう制度の充実強化を図ること。

採択

工事請負契約の変更がありました

賛成多数

工 事 名	簡易水道再編推進事業 来見地区簡易水道	
	第 4 工区工事	第 5 工区工事
工事場所	神石高原町時安地内	神石高原町時安地内
請負金額	135,450,000 円→(変更) 144,987,150 円	56,700,000 円→(変更) 80,789,100 円
請 負 者	庄原市東城町川西 471 番地 1 宮田建設(株)・榊武田組共同企業体	神石高原町井関 2143 番地 1 榊川上建設
工 期	自 H 20.9.9 ～至 H 21.3.27	自 H 20.9.9 ～至 H 21.3.27

工 事 名	平成 20 年度緊急地方道路整備事業	
	町道仁後線道路改良工事	
工事場所	神石高原町古川 地内	
請負金額	48,825,000 円 →(変更) 69,699,000 円	
請 負 者	神石郡神石高原町草木 3744-11 榊後藤組 代表取締役 後藤文好	神石郡神石高原町草木 3744-11 榊後藤組 代表取締役 志垣謙二
工 期	自 H 20.6.24 ～至 H 21.1.30	→(変更) 自 H 20.6.24 ～至 H 21.3.27

元気なグループ紹介

空手クラブ

(時安)



写真は平成19年度の来見公民館祭に出演した時のものです。



毎週、木曜日の夜になると、「時安文化センター」では、平成16年から時安の加藤頼之さんが指導されている「空手クラブ」の子どもたちの元気な声が聞こえてきます。

ここでは、現在、小学生を中心とする15名の子供たちが練習しています。中には3歳の子供もいます。

「空手クラブ」は、①健康な心と体をつくる、②正しい礼儀作法を身につける、③他者をいたわる気持ちを養う、④自分の身は自分で守る(自己防衛)ことを身につけさせることを目標として、指導されています。

そのために、まず挨拶と靴をそろえることをきちんと教えておられ、更に、精神を鍛えるために「瞑想」も行っておられます。

最近のマンガやゲームは、暴力的な場面がよくあり、これも影響してか、簡単に人に暴力を振るったり、殺人事件が頻繁におきる社会情勢になって

います。

この教室で学んでいる空手は、「フルコンタクト空手」(直接打撃制)といって、基本を丁寧に教えたうえで、組み手で相手に「正拳」や「蹴り」を入れる練習も行っています。もちろん、安全防具をつけて行っています。子供たちは、この練習を通じて、体の「痛み」を常に経験します。したがって、日常生活の中でも、他者に対して、人の「痛み」がわかる子供に成長していきます。

この「空手教室」の保護者から、「最近子供が礼儀正しくなってきた」

「いらいらしていたが落ち着いてきた」、「人の話をよく聞くようになった」、「いじめをしていた子が人をかばうようになってきた」などの声が寄せられています。

指導者の加藤頼之さん、それに補助役として指導されておられる川上保隆さん(井関)・馬屋原真さん(上)の、地道な指導で、子どもたちは大きく成長しています。

受講料は無料です。



編集後記

あわただしい年の瀬を迎えた中で、新たなスタートとなりました。議員定数が4名減の14名となりましたが、12名定例会では12名の議員が一般質問に立ち、町の未来を語り、町の持つ課題をたどりました。町の将来に関する問題について4つの意見書を国へ提出いたしました。

議員全員が、議会の持つ使命を痛感し必死です。議会広報も今号から新メンバーでの発行となりました。限られた紙面ですが、出来るだけ、ありのままに分かりやすく編集し、皆様にお届けしたいと思っています。

次号からは新しい企画も考えていますので引き続き、ご指導・ご鞭撻・ご愛読をよろしくお願い致します。(木)